

# 北海道護国神社

## 参拜の栞

皇太后陛下御款

やすらかにむれ

とぞおもふ君の

ため

いのちをげ

やすらふこと

も



(御英霊の鎮まります御本殿)

## 御鎮座地

旭川市花咲町一丁目

## 御祭神

六三、一五三柱(平成二十三年六月現在)

明治戊辰の役より大東亜戦争に至る北海道、樺太関係の国事殉難者を祀る。

## 由緒

本神社は遠く明治三十五年五月五日時恰も日露の風雲急なる最中に旧第七師団長大迫尚敏氏主祭の下に練兵場に小祠を設け北海道に於ける国事殉難者並開拓に殉じた屯田兵の招魂祭典を挙行したのに始まる。

日露戦争勃発するや我が北鎮師団は旅順の功撃奉天の大会戦に参加し、勇名を誣はれたが、その戦歿者は無慮四五〇〇名に及び戊辰、西南、日清の諸役の戦歿英霊に加えて五〇〇〇柱に垂んとするに至ったのでここに社

殿創建の議が興り、明治四十三年時の第七師団長上原勇作並北海道長官河島醇両氏の発起の下に道内有志の贊助を得て、現在地に社殿を建築し之等英霊を祀り爾来毎年六月五、六日を例祭と定め、師団長、長官交互に祭主となり軍官民挙げて盛大な祭典を執行し來つた。

かくて昭和時代に入るや境内狹隘を告げ、社殿亦腐朽して本道随一の招魂場として遺憾の点尠からざるため、昭和十年師団長杉原美代太郎氏長官佐上一氏等全道六十八名の要路の人々が発起の下に道内より淨財を募りよく所期の目的を達成し昭和十年四月二十六日北海道招魂社として内務大臣より指定され神徳いよいよ遍くするに至つた。昭和十四年四月一日官制の改まる処により北海道護国神社と改称し、更に社頭の整備を進め、茲に全道の英霊の総祀社として名実を兼備するに至つた。

昭和六年滿州事変以來支那事変はもとより、昭和十六年十二月八日大東亞戦争の勃発するや、北鎮の將兵は或は極北のアツツ島に或は灼熱の大陸の曠野に、或は南海の孤島に、或は洋上に、大空に勇躍征途に上つて祖国防衛の任に当り、第二次世界大戦の最終戦争たる沖繩の玉砕に至るまで実に五万五千柱の尊い身命を祖国に捧げられたが、英魂は永遠に故郷のこの御社に鎮まり給うた。

昭和二十年八月十五日大東亞戦争の終結を見るや占領政策の然らしむる処により神社の存立すら危殆に瀕する悲運に際会したが祀職並関係者命を堵して之を護持し祭祀遂に一日も滞ることなく国家独立の後には道民崇敬の至誠は澎湃として興り、その例大祭の如きは今や全道の一大祭典として盛大を謳はるるに至つた。然るに終戦後合祀する英霊は実に戦前の十二倍に及び樺太關係英霊の合祀者も数を増し、社殿の狹隘年次その度を加えるに至つたので昭和三十五年四月造営奉賛会を結成し町村金五氏（知事）を總裁に再び全道市町村より淨財を募り茲に社殿の大改築をなし昭和四十年四月完工した。

その後、廻廊屋根銅板に葺替、神池の改修、本殿以下各所の修理総塗替、更に長年の懸案であつた旧兵事記念館をその名も平成館と改めての大改修を行つた。

## 社殿と神苑

境内の広さは約二万坪原始の巨木は亭々として天を摩し、林泉は北海道、樺太両池があり、地下二〇〇米より吸上げたる真清水を満々と湛え英霊に捧げ、神苑には戦前各市町村より献ぜられた樹木は翠緑滴り、その中に丹碧の塗装を施した壮麗な社殿が構えられている。

社殿の総坪数は約五百坪、典雅な総「流れ造り」に統一され緑に映え、雪に照り輝き四季を通じて美しい。

而もそこはかとなく漂う一抹の憂愁感は、やはりこの神社の有つ性格からであろうか額づいての感慨は一入に深い。

※境内の森林中には大雪山系の原生植物が約百四十種許り自生し「清澄うつば」の如き全国的にも奇草といわれるものもあり、学界に注目されている。

## 皇室の御崇敬

戦前戦後を通じ皇室の御殊遇は洵に驚きものを持しているが、大正十一年七月昭和天皇皇太子にましました時御使を御差遣の上御代拝を賜い昭和十一年本道行幸の御御祭祀料を御奉納あらせられ戦後も高松宮宣仁親王殿下、三笠宮崇仁親王殿下、義宮正仁親王殿下、秩父宮勢津子妃殿下次々御参拝あらせられ、特に昭和四十三年九月三日昭和天皇陛下・皇太后陛下の御参拝を拝している。

(尚昭和三十八年造営中にあたり宮内庁より旧二重橋御旧材の御下賜も頂き社殿前の高欄として設置、光彩をそえている。)

## 道民の崇敬

終戦後は社頭の護持は一に奉賛会並遺族の至誠によってなされているが、年次各市町村並諸団体の崇敬が昂まり社頭の参拝者は四時絶えることがない。

## 祭典

一、例大祭は六月四日合祀祭に始まり五、六両日に亘るが全道より数万の参拝者を迎え、旭川市内は祭典絵巻一色に塗りつぶされ、祭儀の規模亦盛大にして厳肅莊嚴を極める。奉納行事は各種団体により市内狭しと行はれるが、中でも一般行事の圧巻は北海タイムス社主催にかかる北海道音楽大行進の偉客壯観は全国にその比を見ない。

二、諸団体申込の慰霊祭、その他遺族申込みの命日祭も毎日行はれている。

又、人生儀礼、諸祈願、奉告、建築、土木、神葬、霊祭等諸祭も随時受付をしている。



大祭奉納 舞樂一陪臚(ばいろ)

# 年間主な祭典

一月一日	元旦祭
一月三日	元始祭
二月上旬	節分祭並 厄除大祈願祭 初午祭
二月十一日	紀元祭
六月四日	合祀祭
六月五日	慰霊大祭(第一日)
六月六日	〃 (第二日)
六月三十日	大祓式
八月九日	北鎮安全神社宵宮祭
八月十日	〃 例大祭

八月十三日～十七日	献灯みたま祭
十月十日	七五三まつり
十月十五日	〃
十一月三日	明治節祭並 神札頒布祭
十一月二十三日	新嘗祭
十二月二十三日	天長祭
十二月三十一日	大祓祭 除夜祭
◇毎月五日	月次祭

# 境内の施設

- 一、北鎮安全神社  
交通を主とし、諸事の安全災害防除の守護神を祀り、車を始め諸事の祈願祭を執り行っている。
- 一、行幸啓記念御歌碑  
世界の平和をこいねがはれ、戦歿者を慰め給う両陛下の大御心を御製御歌に拝することが出来る。
- 一、御造営記念の碑  
昭和四十年社殿造営竣工を記念して建てたもの、英魂不滅の詩が刻まれている。
- 一、慰霊の碑(北海道連合遺族会建立)  
大東亜戦争終結二十年を記念して建てたもの、切々たる遺族の憶いが刻まれている。  
その他、ガダルカナルの鎮魂碑、八九聯隊慰霊碑、殉役軍馬の碑等がある。

## 一、母の像

北海道連合遺族会青壮年部発足二十五周年を記念し、母に感謝の思いを寄せて建立す。

## 一、平成館(旧兵事記念館)

白垂の殿堂として、伝統的な社寺建築の意匠を用いた帝冠様式で、当時(昭和九年)の日本の近代建築に導入された新様式であり、道内に於ても唯一の歴史的・文化的建造物として貴重なものである。

尚、平成三年改修後は六月の大祭並に神社特別行事の時、或は平素市民の文化的行事展示会等に開放。

北海道護国神社社務所(駅よりバス十五分)

〒070 旭川市花咲町一丁目  
電話 〇六〇五 一 九一九一 番  
FAX 〇六〇五 一 九一九二 番